中山道赤坂宿みどころめぐり

～巨大な古墳から壬申の乱、江戸時代、明治の水運まで赤坂の歴史をたどる～

赤坂宿

赤坂宿は中山道六十九次の五十七番目の宿場町として栄えましたが、今から1600年前の「昼飯大塚古墳」、壬申の乱ゆかりの安楽寺や御勝山、江戸時代の中山道文化は言うまでもなく、明治年間には杭瀬川の豊富な水量を利用した舟運交通の要所である赤坂港など、日本の歴史を語り継ぐ貴重な史跡に溢れています。（距離：約４km）

⑤ お嫁入り普請探訪館

孝明天皇の妹君、和宮内親王様のご降嫁の折、宿泊先の不足を補うために、大垣藩では中山道沿いに54軒、南横町や谷汲街道沿いにも宿舎を急造しました。これがお嫁入り普請と言われる家で、この館もそのなごりを留めています。

⑥ 赤坂宿道標

中山道では４番目に古い道標です。天保２年に建立され京都、草津、軽井沢に次いで古いもので、「左たにくみ道」と書いてあり、北へ19kmの谷汲山華厳寺への案内です。

⑧ 赤坂港会館

今は小さな水路ですが、享禄３年(1530年)６月の奥揖斐の大洪水までは揖斐川は杭瀬川と合流して赤坂村の東を流れていました。西側の建物は明治８年赤坂の４辻にあった屯所(警察署)を復元したものです。明治後半から金生山の石灰を運ぶ舟が登録数で386隻、小さな舟まで合わせると500隻以上あり大変賑わいました。

⑦ 赤坂宿本陣跡（赤坂本陣公園）

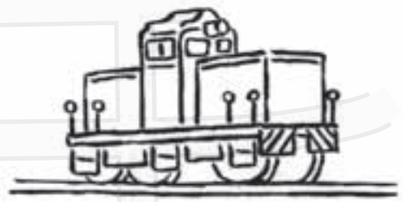
間口24間、奥行き33間、面積約800坪(2,600)、建坪239坪(790)で中津川本陣に次いで県下２番目の大きさを誇り、門構え、玄関付、書院造、上段の間等の豪華な造りでした。公園の奥には幕末に長州藩に入り活躍した赤坂出身の所郁太郎の銅像があります。

② 安楽寺と御勝山

安楽寺は、推古天皇元年(592年)、聖徳太子の創建でこの地方屈指の古刹です。壬申の乱(672年)で大海人皇子が自分の領地である美濃地方のこの岡山に兵を集め先勝祈願し勝利します。その故事に倣って、徳川家康も岡山に陣を張り、翌日、関ヶ原の桃配り山に出撃して勝利を収めました。

① JR美濃赤坂駅

赤坂宿めぐりの出発はJR美濃赤坂駅。今では貴重な木造のこの駅は、金生山から産出される石灰輸送の中継地点となっています。

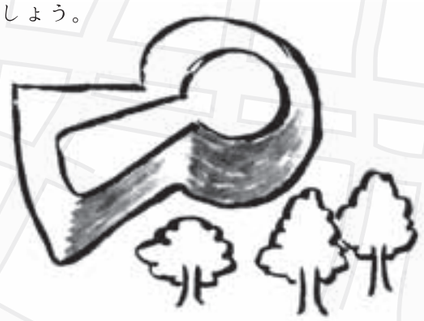


④ お茶屋屋敷跡

中山道で唯一１カ所残っている貴重な史跡です。征夷大将軍となった徳川家康が京へ上洛するため中山道に16kmごとに造らせた将軍家専用の休憩宿泊所です。かつては巨大な敷地を土塁が１周し、信長の建てた千畳敷御殿が移築されていました。今は、西半分ほどが中学校の校庭に提供され、残り半分程に400年前の濠跡や土塁を見ることできます。また４月下旬には牡丹の花が咲き誇る牡丹園として知られています。

③ 昼飯大塚古墳

４世紀末築造、延長150mの前方後円墳で、名古屋市の断夫山古墳に次いで東海地方１、２と言われる大きな古墳です。当時の大王家の王子がこの土地に土着した権威墓なのでしょう。



企画　中山道赤坂宿まちづくりの会
制作　中山道ぎふ17宿歩き旅事務局（日本イベント企画株式会社内）